

# 第1回みやき町総合計画審議会 議事録

## ○日時

令和3年12月17日（金）14：00～

## ○場所

みやき町庁舎 2階 災害対策会議室

## ○次第

### 1. 開会

#### ○町長挨拶

・本日は、ご多用中のところ、第1回となるみやき町総合計画審議会にご出席いただき、感謝申し上げます。ご承知の通り、時代の流れは大変早く、自然災害もあり、新型コロナウイルスもありということで、自治体全体を取り巻く環境自体は、目まぐるしく変わっている状況です。これらに対応しながら、今後、目指すべき目標を決めていくべきというのは、行政体として当然のことです。もう1つ、私が4月に町政をお預かりして、一番初めに掲げたのは、継続すべきは継続し、変革すべきは変革するというので、しっかり町政を運営していくという方針です。そのためには、みやき町の一番屋台骨となる総合計画をいま一度見直す必要があるということで、委員の皆様のご理解を賜り、第三次総合計画の改定という流れで動いているところであります。前段で、みやき町にお住まいの三養基高校生や住民の方々のワークショップなど、既に開催させていただいています。そういった動きも踏まえて、今日、初めて第1回の総合計画審議会を迎えているところです。ここが、町の重要な、一番中心となる計画なので、進捗の折々に触れて、皆様方にご審議いただく機会を設けさせていただきたいと思っています。半年から1年弱になろうかと思いますが、皆様方のお力をもって、しっかり町政側も頭をひねり、みやき町の将来を指し示す、いい計画を作りたいと思うので、お付き合いください。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 2. 委嘱状交付について

### 3. 会長及び副会長の互選について

・会長に五十嵐勉委員、副会長に中島美砂子委員を選出

#### 4. 第三次みやき町総合計画の諮問について

(会長)

- ・議事に入らせていただく前に、この審議会は公開するのか。みやき町のほかの前例を知らないが、委員会の公開等に関する規定等はあるか。または、議事録は公開されるのか。委員の皆さんの発言に配慮が伴うことがあり得るので、みやき町はそういう規定等はあるかを先に確認したい。

(事務局)

- ・本審議会は、会議、議事録共に非公開です。

(会長)

- ・了解した。報道等の取材も会議室には入らないという前提でよろしいか。

(事務局)

- ・はい、左様です。

(会長)

- ・その辺りをご了承いただきたい。では、第三次みやき町総合計画について、事務局から説明をお願いします。

(委員A)

- ・質問がある。この総合計画審議会は条例によって設置されており、条例の第4条で、任期は答申で終わりとなるが、我々は委員としてそれでいいのか、責任放棄ではないかと思う。10年間の計画を作る中で、委員会が審議した事項について責任を持ち、進捗や結果をどのようにローリングしていくのかを審議会がすべきではないかと考える。会長は、他市町の計画を立てているということなので、お考えを伺いたい。

(会長)

- ・会長が答えるべきか、事務局が答えるのか悩ましいところだが、諮問を受けた内容は総合計画を策定し、町長に提出するというものである。総合計画は10年計画なので、5年目に見直しを行う。その際、通常、5年間の進捗状況、社会の変化を含めて、再度見直しのための委員会が開催される。今のご質問に対して、事務局はいかがか。

(町長)

- ・既に、私の任期がスタートして8～9カ月たとうとしており、これが完成後、11年の計

画を決めていくというご説明を今後していくつもりです。私もいろいろな計画に携わって、途中のチェック、見直し、ローリングの重要性は感じています。審議会としては、策定、中間見直し時の役割として、途中のローリングはもう少し小規模の委員会がいいのか、もしくはこの審議会メンバーで途中のローリングも審議していくのか、検討させていただきたい。事務局の考えとしては、中間見直し以外のさらに間のところでの成果やローリングをする場を設けていきたい。いわゆるP D C Aのサイクルを、しっかりチェックしていく機会を設けていきたいというのが、基本的に考えているところです。それを踏まえて、条例をどう改正していくのかも含めて、今後お諮りしながら、当然、議会の議決も必要になるので、完成までには2回くらい議会があると思います。そういうタイミングで検討していきたい。

(委員A)

- ・条例改正ということになれば、任期についてもこの審議委員の総意をまとめ上げておくべきではないか。皆さん方の意見をまとめ上げ、それによって条例改正をすることになるので、その部分をここで追加の議題として決めておくべきではないかと思う。

(事務局)

- ・A委員が言われたとおり、検討したい。議題の「その他」で、委員の皆様方のご意見を伺い、来月以降もこのメンバーで審議会をさせていただきます。今日、結論が出なければ、6回の審議会の中で十分検討させていただきたい。それを踏まえて、先ほどの条例改正等も含めて検討させていただきたい。

(会長)

- ・現在の総合計画を策定した5年前は一般的ではなかったかもしれないが、最近の総合計画は、10年間で何を具体的に達成するか、K P Iという達成指標をかなり盛り込む。指標を盛り込んでいることで、町の職員さんたちも、毎年の進捗状況を丁寧にチェックすることができる。これから作る総合計画に、K P Iをどの程度盛り込むのかも審議の対象になると思う。そういう具体的な達成目標を挙げていけば、場合によっては毎年度その進行状況をチェックする資料があるので、P D C Aを回すために、その資料をかなり盛り込んでいく必要があると思う。この辺のところは、今後の審議会で検討させていただきたい。最上位計画なのであまり細かい指標は出さないという考え方もあるが、それなりの大きな指標は、示すべきところは示したほうが良いと個人的には思っている。第2回の審議会で、総合計画の進捗状況を、P D C Aを回すためにどんな仕組みでやるかを事務局でご検討をお願いしたい。

(事務局)

- ・住民さんにも見える形で、はっきり数値目標等を出したほうがいいと思うので、総合計画の中でも、住民さんにも見える形で、現状値、目標値をお示しできればと考えています。その辺についても、この審議会で十分ご検討いただきたい。

## 5. 議題

### (1) 第三次みやき町総合計画策定方針について

#### ・第三次みやき町総合計画策定方針及びスケジュールについて

(事務局)

- ・資料説明（議題資料①第三次みやき町総合計画策定方針、議題資料②策定スケジュールについて）

(会長)

- ・私から確認だが、現在の総合計画を練り直して新しい計画を作った際、現在の総合計画にぶら下がっている多くの下位計画も、総合計画の趣旨や構想に整合しなければ変えていかざるを得ないという膨大な作業が一方で生じる可能性があるという点が1つ。今年度3月に基本構想をまとめて、来年度、実行計画を策定する過程で、基本構想の修正等は可能か。総論から入って、具体的な実践の話に入り各論を議論していくと、総論を直したいということがよく出てくる。3月に策定する基本構想は、来年度の実行計画の審議の中で修正等は可能か。その2点の確認をお願いします。

(事務局)

- ・1点目については、町の最上位計画である総合計画が見直されれば、下位計画も見直しが出てくるものと考えています。2点目の基本構想を3月までに策定して、その後の計画で見直しがあった場合の修正については、地方自治法が改正され議決事項ではなくなったため、審議会の中でご議論いただき変更することは可能と考えています。

(会長)

- ・策定方針案について、ご質問、ご意見等をお願いします。

(委員A)

- ・第二次総合計画は、完全に頭から外していいのか。現在は第二次の基本構想で、令和4年度からは後期の基本計画に沿ってきている。これを完全に捨てて、一番頭の総合計画という形で持っていくと、会長が言われたように膨大な作業が必要になる。この第二次総合計画を練り直す形で第三次計画を練っていくのかどうかが一番大事なので、そこを聞きたい。継続中の施策はどうなるのか。

(町長)

- ・冒頭申し上げたとおり、継続すべきは継続し、変革すべきは変革するという基本的なスタンスは持っています。もう1つ大事なことは、行政の継続性も踏まえなくてはいけない。これまで重点政策としてやってきたものには、多くの税金が投入されて事業化されています。この審議会で、継続すべきものは何か、改革すべきものは何かを踏まえて、練り直しの部分もあり、踏襲すべきものもありという中で、事務局側の私の提案として、分かりやすい、審議しやすい提案ができるよう努めていくが、継続性も踏まえて重点政策はどれでいくのか、入れ替えは必要ないのか、増やす必要はないのかという練り直し、全く新しいところではなく、第二次総合計画を踏まえて新しいものをどう作っていくかというスタンスでご議論いただくと、行政の継続性が担保された新しい総合計画ができるのではないかと考えています。

(会長)

- ・今の点についてはよろしいか。今回、第三次という新しい計画を作る前提として、本来は中間的な見直しの場合に行う現在の総合計画の進捗状況について、データも含めてこの審議会に出せるか。

(事務局)

- ・次回審議会では基本構想の原案を示させていただくが、この原案の中には、これまでの第二次計画に即した事業成果の評価も入ってくるので、関係資料も併せてご提示して、ご意見を頂戴したい。

(会長)

- ・了解した。

(委員B)

- ・アンケートの採り方で、配布数2,000件というのは、人口に対して何%という決まりがあるのか。意見の集約は、最大限やっていくべきと思うので、どういう設定をされたのか、また、今後、ワークショップも含めて、新たな意見の集約はされるのかという点もお聞きしたい。

(事務局)

- ・今回のアンケート調査は、第二次計画の時と同様の2,000人を対象に配布しました。人口に対してどれくらいの母数を設定するのが望ましいのかという計算式に当てはめたところ、回収率約40%を見込んだときに、約2,000名の配布で一定の内容の把握が可能ではないかという判断のもと、今回、2,000名の対象者の設定に至りました。

おっしゃるとおり、例えばワークショップなども併せて、できるだけ多くの方からのご意見を頂く機会を、今後も検討させていただきたい。

(会長)

- ・アンケートに関しては、計画に盛り込む成果指標の中に、例えば町民の満足度を何%上げるといふ成果目標を掲げる場合がよくある。その場合、アンケートで毎年必須項目を聞く、アンケートは毎年実施する、ある一定年度、同じ項目について聞くという前提でないと、成果指標に挙げにくいデータになるので、今回は、第三次総合計画策定のためのアンケートだが、今後はPDCAを回すためのアンケートという視点で、2,000名が適当なのか、もっと母数を増やすべきなのか、毎年必ず採るのか、その辺りは、事務局は慎重に検討したほうがいいと思う。

(委員C)

- ・今回、ワークショップやアンケートを採られているが、このアンケートやワークショップは、今のみやき町をより良くするためにどうしたらいいか、また、今不足しているものに対する直近の意見が多いと思う。今回の策定は、今から10年後、20年後の将来のみやき町をにらんでの方針となるので、ワークショップやアンケートの結果だけではなく、全体的な姿を見ながら、総合計画を作るべきだと思う。次回示される原案はどういうものかをお聞きしたい。

(事務局)

- ・今回の基本構想は、町の50年後を見据えた基本構想であるべきというスタンスに立って作っていきたい。アンケートやワークショップの議題は、今のみやき町を取り上げたものだが、今よりももっと良くするためのプロジェクトも、高校生ワークショップの議題とさせていただいて、活発なご意見を頂戴しました。この辺りも十分踏まえながら、将来を見据えた基本構想を念頭に置いて策定を進めたい。

(委員A)

- ・アンケートの採り方で、2,000名で45.8%ということは、1,000人分しか出ていないので、25名に1人しか出ていないが、それで本当にいいのか。事務局が50年先と言われたが、今の小学生の夢が欲しいのである。第二次総合計画でやってきた定住促進でみやき町に転入した方たちは、将来を考えながらみやき町に転入されてきたと思う。そういう特殊な人たちの少数意見も、50年先のことに関しては重要ではないか、全体的なアンケートも必要だが、部分的なアンケートも必要ではないかと考える。

(事務局)

- ・今回のアンケート調査は、第三次総合計画策定のためのアンケートで、対象者の抽出に関しても、統計学をベースにして2,000名、無作為抽出という形を取らせていただいた。A委員がおっしゃるとおり、小学生や新規転入者の意見を拾い上げるためには、無作為ではなくターゲットを絞ったもの、それがアンケートになるのか、ワークショップになるのかも含めて、今後、意見聴取の際に検討したい。

(会長)

- ・「2050年を見据えて」と言葉で言うのは簡単だが、社会の変化が非常に早く、劇的な変化が起こっている中で、町レベルで2050年を見据えてということ、どこまで共通イメージとして持てるかは、かなり難しいと思う。一方で、日本の将来人口が1億人を割るなどの予想がされて、大きな関連する施策がどんどん決められていく。つまり、国の大きな流れも視野に置きながら、佐賀のみやき町をどう位置付けていくかというアンテナが必要だと思う。この新型コロナも、世界中の誰も予測できなかったことが、今起こっている。ただし、SDGsに関しては、2030年の目標と定められているので、中期目標ではなく今の目標であり、新しい三次計画に積極的に盛り込まないと、今から策定する総合計画の体をなさないだろう。中長期の時間軸で考えるという趣旨は皆さん納得されると思うが、長期的な視点を具体的にどのように考えるかは、テーマによって違ってくるというのが、私の考え方である。

(町長)

- ・この総合計画を策定していく作業は、非常に難しいと理解している。夢を語る部分と、現実的に実態を見据えて計画期間の11年をしっかりと回していくための計画の両方あるべきだと思います。50年という数字は、ぜひ入れてほしいという私の希望で入れさせていただきました。その意図は、総合計画自体が50年後に通用するというものではなく、夢の部分として、50年後、この総合計画の11年が終わった後でも、首長が代わったとしても、みやき町としてしっかり取り組んでいきたいものとして残していきけるもの。例えばスマートインターの整備が、11年後に実現が難しいという話になった場合、宿題として残したほうが良いというご意見を頂ければ、ぜひ残してほしいということです。この計画は50年後を担保したものではなく、最後の夢を語る部分として、「将来を見据えた50年後」という言葉を入れるよう事務局に指示しました。

(会長)

- ・現行計画の17～26ページに相当するところが、次回、事務局から出される基本構想原案のイメージということで間違いないか。

(事務局)

- ・第二次計画の17～25ページまでの記載の形です。今回の計画は、分かりやすい計画を軸に考えたいため、どのような形が好ましいのかについても、忌憚のないご意見を頂きたい。

(委員D)

- ・第二次計画には計数的なPDCAを感じさせるものではなく、精神論ばかり書いてあるが、これをどのように三次計画にもっていくのか。

(会長)

- ・私も二次計画に目を通したが、別途、実行計画がないのであれば、今回は、要所、要所で達成すべき目標を数値化して明確に載せるという前提で考えるべきである。

(委員A)

- ・次の審議会でコンサルが作ったたたき台が示されたら、それを変えるのは非常に難しいと思う。第二次総合計画を頭に置いて、50年後まで続けていく部分、残すべき部分については、たたき台が出る前に検討すべきではないか。今日、ここで審議をして、自分たちが考えたものとコンサルのたたき台とどう違うのかを検討したい。総合計画だけでなく、他の計画も、作っただけになっている。審議会で、しっかり意見を出したほうがいいと思う。

(事務局)

- ・たたき台を提示する際は、第二次計画のふり返りが基本になります。その資料も提示させていただくので、委員ご指摘のとおり、第二次計画の評価で継続するところと見直すところを明確にしてお示ししたい。

(会長)

- ・そういうご意見が出ることを予想して、3月末に取りまとめる基本構想は、来年4月以降に修正可能なのかを確認させていただいた。あと2回の委員会で、構想案を議論して合意できるところまで持っていけるか、会長としては不安である。3月には、ある程度、構想案の素案について方向性をまとめて、来年4月以降、実行計画を検討する中で、その素案をよりブラッシュアップしていくスケジュール感ではいかがか。

(事務局)

- ・承知しました。先ほどの説明で、基本構想は令和4年4月の開始と申し上げたが、今回のご意見を踏まえて、今年度中に素案を取りまとめる形で進めたい。



(委員E)

- ・事務局にお願いである。基本構想の目標人口については、合計特出生率を勘案して、現実に沿った目標数値を作っていただきたい。なぜかという、私は第一次総合計画を担当したが、町の将来像は人口増で夢を見る形の計画書が多かった。首長さんたちは、夢があるマスタープランを作りたいがるが、今後は現実に合った、出生率に合った、目標人口に合った総合計画を作っていただきたい。

(事務局)

- ・第二次総合計画の2つの重点目標に、評価指標、数値目標を挙げているので、参考までにご説明させていただきます。健康寿命については、介護保険の要介護者データ等の収集が必要なため、現時点でお示しすることはできませんが、この中で、「健幸長寿」のまちづくりの推進」という重点目標について、成果指標で50歳以上の方の年間転入者数を挙げています。第二次総合計画における50歳以上の年間転入者数の策定時の基準値は、平成17年～22年の平均値により24.6人としていた。ここに年間転入者数と書いてありますが、転入者と転出者の差で社会増の数値を挙げているため、年間転入者数という表記は正しくありません。この社会増の基準値は24.6人で、平成33年度の間目標値を30人と設定していた。直近となる令和2年度の50歳以上の転入者数176人に対し、転出者数は133人で、43人の増で中間目標値の30人を越える社会増が示されています。もう1つの重点目標である「子育て支援のまちづくりの推進」では、委員ご指摘の合計特殊出生率を評価指標としています。第二次計画における合計特殊出生率の基準値は、平成27年度の数値に基づいて1.41、今年度に当たる中間目標値を1.77としていた。直近の数値では、令和元年度の女性人口及び出生者数から求めた合計特殊出生率は、1.73です。中間目標値の1.77には届かないが、ある程度目標値に近い数値を示しているのではないかと考えています。

(会長)

- ・委員ご質問の意図は、将来の人口ビジョンを前提とした計画を作りましょうということである。それについては、地方創生の総合戦略の中で、人口ビジョンデータを厳密に出しているの、それを再度確認の上、総合計画に反映させればよいと思う。

(事務局)

- ・現在、みやき町の人口動態は4年連続で増加しているが、日本全体で人口が減少しているので、社人研や人口ビジョン等を十分考慮して、現実を見た上で、目標人口を定めたい。

(町長)

- ・補足です。人口増は、税収を確保する上でも必要なことなのでしっかり頑張っていく

が、もう1つ上の議論として、日本全体の人口が減っていく中でみやき町はどういうまちづくりをしていくのかということも必要だと思います。まちづくりを頑張っておられる山崎さんが、本の中で「縮充」という言葉を新しく作られています。縮小するに充実すると書いて「縮充」です。日本は、人口拡大ということできているが、これから減少傾向がしばらく続く。その中で、いかに充実した社会をつくっていくのかという議論も、一部上のところではしなくてはいけないという思いです。

(会長)

- ・時間の関係があるので、今回準備していただいた住民アンケートとワークショップに関連する報告を事務局より願います。

#### ・住民アンケート並びにワークショップの結果について

(事務局)

- ・資料説明（当日配布資料 第三次みやき町総合計画策定のためのアンケート調査概要について）

(会長)

- ・今回のアンケート結果やワークショップの内容等も、この審議会で基本構想や具体的な計画を作っていく段階で、1つの資料として使う前提での説明であった。あえてここで、ご質問やご意見等はあるか。

(委員D)

- ・前回というのは、第二次計画を作る時のアンケートのことか。

(事務局)

- ・5年前、2017年の二次計画策定の時のアンケートです。

(委員D)

- ・総合計画を作れと言われても、会長がPDCAと言われたように、何ができて何ができなかったのかをチェックしないと分からないので、順番が違うのではないかと思う。

(会長)

- ・絶えず進捗状況をチェックしていく上で、それなりの規模のアンケートをどれくらいの頻度で採るのか。今回は5年だが、5年で進捗状況の確認ができるかということである。下位の計画や施策で実施している別のアンケート等のデータも活用しながら、総合的に住民の方々の意識、満足度を拾い上げていく努力は必要になると思う。参加

した高校生は、みやき町内に居住する高校生か。

(事務局)

- ・全員みやき町内に住んでいる高校生です。

(会長)

- ・今後のこの審議会での検討材料として、積極的に活用するデータだどご理解いただきたい。本日の主な協議事項は、以上である。

## (2) その他

(事務局)

- ・A委員からご意見を頂いたチェックするという点に関して、この審議会の条例は方針が出るまでとなっているため、事務局としては、引き続きPDCAでチェックしていただける形で、審議会になるのか、別の組織になるのかを策定審議会では考えていますが、皆様のご意見を頂きたい。

(会長)

- ・二次計画にはPDCAが入っていない。通常は、PDCAを働かせる項目が、総合計画の一番後に入るので、この審議会で第三次の案を検討する中で、PDCAサイクルについてきっちり盛り込もうと思うが、事務局はよろしいか。

(事務局)

- ・結構です。

(会長)

- ・それに従って、条例が必要であれば条例の改正等を行うことになる。また、冒頭申し上げたが、情報公開は極めて大事で、住民の参加を促すためには、積極的な公開が必要である。この種の審議会は、傍聴可能にして、公開していいはずだが、それがないので、町全体としての情報公開をどう考えるかも含めて、総合計画の中で、必要であれば検討すべきだと思う。

(事務局)

- ・公開に関する点も条例の中に含まれるので、その点も含めて、条例改正等も必要かと思えます。

(委員F)

- ・今回の客観的な指標は、アンケートによるものがメインである。アンケートをメインに話をしたり、子どもの未来について話をしたりするには、アンケートを採る学生が少ない。二次で17人、今回が44人なので、5%違って、実際の人数は1人～2人の差である。外部委託されるのであれば、アンケートの採り方についても重点的にやっておかなければいけないと思う。そこをぜひくみ取っていただきたい。

(事務局)

- ・おっしゃるとおりです。先ほどから満足度を測る指標として、毎年定期的に同じ質問でアンケートを採る必要があるというご意見も頂いている。その点も踏まえて、住民の満足度を測る指標として、アンケートも充実させていきたい。

(委員F)

- ・定数を最低でも100や200にして、学生の皆さんにも我々はこうしてやっているという意識付けさせる意味でも参考にしていただけたらと思う。

(事務局)

- ・その方向で考えさせていただきたい。

(委員G)

- ・高校生に限ると三養基高校しかないが、他の所に通学している生徒もたくさんいる。中学生は、校区ごとにいるので、中学生も入れて中高の形ですと、もっと集まるのではないかと思う。

(事務局)

- ・今後のワークショップの在り方、アンケートの対象者をどのように設定するかも含めて、検討させていただきたい。

(町長)

- ・例えば農業者、商業者の方々を集めて分野別にワークショップをすると、もっと詳しい話が聞けると思う。さまざまなご指摘を頂くためのこの場なので、どんどんご指摘を頂いて、回を重ねて、議論できる資料をそろえていきたい。よろしく願います。

(会長)

- ・DXの時代なので、これからWebアンケートの割合を増やせば、事務局としても作業量は格段に減ると思うし、職員でもできると思う。デジタル化を言うのであれば、自ら実践することもご検討願う。

(委員A)

- できれば各小学校で低学年、高学年での1クラスずつ、年1回～2回、「未来のみやき町づくり」という題で1時間くらい時間を取ってもらってアンケートにしていくと、子どもたちは、自分たちで考えたまちづくりということで、町にもっと愛着が湧いて、みやき町で働こう、みやき町をもっと良くしようという気持ちになり、みやき町から出て行かなくなるのではないかと思う。50年先を考えれば、教育委員会と連携を取っていただきたい。

(町長)

- 総合の時間等もあるので、郷土愛を育むという意味でも、教育委員会と協議をしていければと思う。

(会長)

- 予定された議事は以上である。事務局から何かあるか。

(事務局)

- さまざまご指摘、ありがとうございます。本日は、総合計画の策定方針、スケジュール、アンケート、ワークショップの結果を中心に説明させていただきました。今後は、これらの結果、頂いた意見、基本構想のたたき台になる部分を関係資料と併せて、次回審議会でお示しさせていただきます。次回の審議会は、現在、1月31日月曜日、9時30分から、場所はこの部屋を考えています。後日、開催通知をお送りするので、ご出席をよろしく申し上げます。

(会長)

- 他になければ、本日予定されていた議事は終了する。

## 6. 閉会